

学びやの記憶

休・廃校を訪ねて ④

中村小・中学校

(吉野川市)

た中村小学校だ。かつて同小には中学校も併設され、2階建ての校舎で児童生徒が一緒に学校生活を送っていた。

「中学の生徒会役員を決める選挙に、小学生も投票しよったんよ」。64年度に中学を卒業した下時治郎秀臣さん(60)「嶋島町山路、タイヤ販売」が懐かしそうに振り返る。小学生は1階、中学生は2階の教室で学び、音楽室や図書室は共用。中学校教諭が小学校の学級担任もした。

68年に新任教諭として赴任した松村勝子さん(66)「旧姓宮本、山川町麦原」子どもがほとんどで、松村さんは「家庭訪問は1日に1、2軒回るのがやっ

1888(明治14)年に中村山尋常小学校として創立。戦後の学制改革で中村山小、中村山中と改称され、昭和の大合併で旧美郷村が誕生した1955年に中村小、中村中となった。団塊の世代の下さんが通ったころは、小中合わせて約150人の子どもがいた。

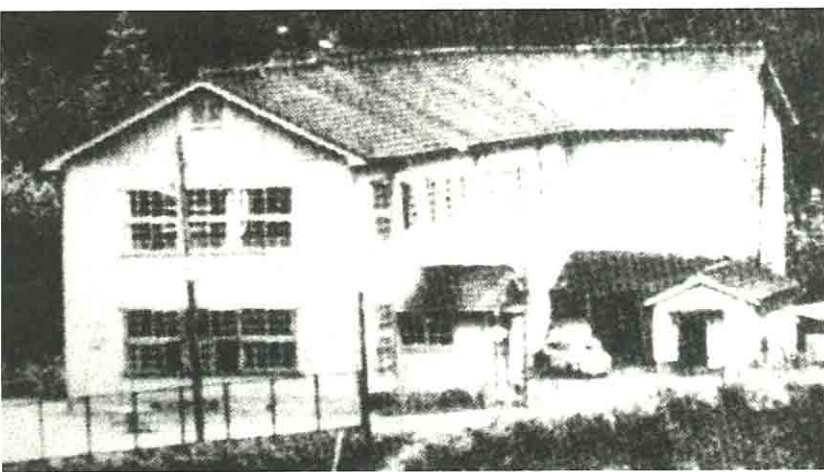
学校は標高約480mの山の斜面にあり、村内4校区で最もへき地。山や谷を越えて登校する子どもがほとんどで、松村さんは「家庭訪問は1日に1、2軒回るのがやっ



1888(明治14)年に中村山尋常小学校として創立。戦後の学制改革で中村山小、中村山中と改称され、昭和の大合併で旧美郷村が誕生した1955年に中村小、中村中となった。団塊の世代の下さんが通ったころは、小中合わせて約150人の子どもがいた。

学校は標高約480mの山の斜面にあり、村内4校区で最もへき地。山や谷を越えて登校する子どもがほとんどで、松村さんは「家庭訪問は1日に1、2軒回るのがやっ

卓球部 県大会で優勝



とだった」と苦笑する。冬はたびたび大雪に見舞われた。国旗掲揚台の土台(高さ約15m)まで積み重ねれば校舎になるのが慣例だったため、朝早くから掲揚台の回りに雪を集める児童の姿が見られたという。

そんな山間部の学校が、県内で一番になったことがある。中学校男子卓球部が64年から66年にかけて、県大会で団体ダブルスで数回の優勝を果たしたことだ。校庭の狭さや少人数のハンディを乗り越えようと、学校

【上】小中一体となった2階建ての校舎(美郷中休校記念誌より) 【下】2階建て校舎の跡地で思い出を話す下さんら卒業生。奥は1975年に建てられた中村小新校舎



を挙げて卓球に打ち込んだ努力が実った。「山の学校でも、やればできるという自信になった」。ダブルスの選手だった中野利幸さん(58)「嶋島町上浦、大工」は今、そう思い返す。

中学校は69年に美郷中に統合された。小学校の新校舎が75年に完成し、2階建ての校舎は取り壊された。旧校舎時代の足跡をつづった資料も少なく、学びやの記憶は、卒業生や教員らの胸にそっとしまわれている。(毎週火曜日に掲載)